

TRAUBEN は、いよいよ 10 年目に突入！ 皆様のおかげでマイペースの歩みを伊都さんとともに続けて来られたこと、もう、感謝しかありません！ 記念に？ TRAUBEN 主催の「Wiener Wind」コンサートを、今年は山手の横浜ユニオンチャーチで開催することになりました。例年より多くの皆様にお聴き頂ける広さがありますのでぜひご参加をお待ちしています。伊都さんはコンサートに大忙し。今回ご報告するもの以外にも、ホームコンサートや展覧会やパーティでの演奏など、アクティブに活躍しています。

## 近況報告



先日ブラームスについて調べている際、彼の好物がレバー団子のスープだったというのを読み、レバー団子スープはウィーンの名物でもあり、ウィーン音大の学食で、授業の合間に良く食べたこと、クリスマス間近、朝洗った髪の毛が氷点下、まだ暗い中（朝 11 時にならないと明るくならない）に急いで家を飛び出したため、乾ききらずに先が凍り、ドイツ語で説明される複雑なバッハの対位法の授業の間に少しずつ溶け始めて、ノートに落ちる水滴をセーターの袖で拭いつつ、講師があまりにも薄い水色の目の持ち主で、本当に私たちと同じように世界の色は見えているのだろうか・・・とどうしても疑問に思わずにいられなかったこと、授業のあとに食べるレバー団子スープがやたらしょっぱいのだけど、体にしみいるように美味しく感じたことなどの当時の情景を一気に思いだし、無性にレバー団子スープが食べたくくなりました。



味と記憶はリンクしているとよく言われますが、音楽と記憶も同じように、それ以上に密接につながっている気がします。そして、同じ新鮮なお刺身でも海外で食べるより、湿気のせい、空気の密度が少し重く感じる日本で食べる方が美味しく感じる気がするように、同じ曲でも日本で、また違う場所で演奏するとイメージががらっと変わることに、例えば、ウィーン風行進曲をウィーンで弾くとちゃんと行進曲に聞こえるけれど、イギリスでは踊りの曲に聞こえ、そして日本ではなんだか少し切ない曲なのではないか・・・と感じたりと、様々な場所で弾く機会が続いている今、改めて、音楽と感覚と記憶、そして土地それぞれのつながりが、思っているよりも強いことに、驚きと楽しさを感じています。【伊都】



## Spring Has Come at Bar BarBar

4月28日、横浜関内のライブハウス BarBarBar でライブコンサートが行われました。1st ステージ:クラシックの名曲。特にウィーンにちなんでモーツァルト、クライスラー、パガニーニやハンガリーの曲など。2nd ステージ:ポピュラーな名曲。今度はイギリスにちなんだ、イギリスで好まれる、少しポップな音楽やニューシネマパラダイスなどの映画音楽、そしてタンゴ。3rd ステージ:ヴァイオリンソロでアイリッシュとジブシー音楽、という構成でした。以下、伊都さんのレポートです。



「同じ横浜在住が発覚したこと、高校時代の同級生でピアニストの高宮葉月ちゃんと 10 年以上、本当に久しぶりの共演、二人の高校の時の話や、1st と 2nd では、私が長く住んだ愛着のある 2 つの場所、ウィーンとロンドンで過ごした時のこと、曲にまつわる当時のエピソードなどを 私も懐かしく思い出しながら、曲の解説と共に披露したり、3rd のソロでは、ジブシーの友人の話をしてしたりと、私の旅行記、滞在記のような感じで、海外に行ったような気持ちになったと色々な人から言われ、また、初めて聞きに来てくださったお客様も多く、ヴァイオリンの生の音って胸に響く・・・とたくさんの人に言って頂けたことが演奏家冥利につける嬉しいことでした。BarBarBar は横浜屈指の老舗ジャズライブハウス、時代とアーティストの匂いが染みついたレトロな雰囲気の中で（下のバーにその後通い始めた方もいるとか。）お客様も 100 人近く来てくださり満員御礼、いろいろな意味で充実したライブになりました。」





## 県民ホール現代工芸展ミニコンサート

6月3日、県民ホールギャラリーで行われた現代工芸展、ミニコンサートにて、久しぶりに中村新史さんのアコーディオンと、タンゴとジブシーの名曲を演奏。お客様の多くは、工芸という分野で活動されているアーティストの方々。ただ演奏を聴くのと違う、色々な意味を音楽に求めているかのような視線を感じつつのコンサート。表現するという考えさせられたコンサートになったようです。



## Ito Kanoh Summer Live

7月5日(水)

Start 19:30 (Door open 18:30)

Piano/Accordion 中村新史

At: 六本木 C\*LAPS

Music Charge: 3500円  
(+1ドリンク 飲食別)

予約: 六本木 C\*LAPS ホーム  
ページ予約受付フォームから

問い合わせ: 03-5485-5771

**華やかに六本木進出！  
ご予約は今、すぐに！**



## TRAUBEN 9th Concert in Afternoon

Wiener Wind ~ウィーン風に吹かれて~

9月10日(日) 16:00 開演

横浜ユニオン教会

近日中にご案内をお送りします

## 予告! 第15回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2017年12月22日(金) 18:30 開場 19:00 開演 横浜みなとみらいホール小ホール

メールマガジンのご登録はこちらから [http://itokanoh.com/form\\_mm/mm.html](http://itokanoh.com/form_mm/mm.html)



## DVD Classic Collection

作品 No.29 「カルテット! 人生のオペラハウス」

2012年 イギリス

引退した音楽家たちの「終の棲家」



### あらすじ

イギリスの田園風景の中に建つ邸宅「ビーチャムハウス」は現役を引退した音楽家たちが余生を過ごす老人ホーム。経営難のホーム存続のために入居者によるコンサートが企画されていた。ある日、そこに住む昔のカルテット仲間レジー、シシー、ウィルフの元へ、かつての仲間だったジーン（マギー・スミス）が入居してきた。レジーは、昔自分を傷つけた元妻のジーンを許すことができなかったが…。

### 見どころ

ダスティン・ホフマン 75歳の初監督作品。メインの俳優以外は、かつてイギリスで名を馳せたトップ音楽家をキャスティングし、弾くフリや歌うフリはさせないとのこだわりで、歌や演奏はすべてライブ収録。かなり高齢のアーティストも楽器を前にすると別人のようになるところが素晴らしい。ヴェルディ、プッチーニといったオペラ作品など、音楽もたっぷり楽しめる。

### 感想

ヴェルディは、1896年に世界でただ一つ、年老いた音楽家が共同で生活し、人生を全うするための「音楽家憩いの家」を私費を投じてミラノに創設し、今なお50人程が暮らしているそうだ。その事実インスピレーションを得てヴェルディ生誕200年の年にこの映画が作られた。ヴェルディは音楽家たちの恵まれない晩年を憂慮して、最期まで尊厳を保って音楽に向き合えるように、とその家を建てたという。映画の根底に流れている大きな愛を感じる作品。

\*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 今話題のテレビドラマ「やすらぎの郷」。倉本聰が、脚本家である主人公に自分を重ねて描いたという渾身の作品。ドラマの舞台は昔テレビ界で活躍した人だけが入居できる老人ホーム、という設定に、あれ? 「カルテット!」に似てる? と思ってしまう。/ 倉本聰もヴェルディの「音楽家憩いの家」のことを知っていたのかもしれない。昔、一時代を築いたアーティストが今は名前を忘れられたとしても、その才能を宝として私財で護る…その発想は全く同じ。/ 過去の栄光ゆえに、老いは残酷な現実になる一方、当たり前になる物忘れやユーモラスな会話のやり取りが「あるある」的な笑いを誘う。/ 今まであまりなかった「老い」をテーマにしたドラマが受けるのは時代の流れかもしれない。 <ゆ>

発行: 加納伊都後援会 TRAUBEN

〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15

TEL: 045-622-6780

FAX: 045-621-6423

Email: [trauben@itokanoh.com](mailto:trauben@itokanoh.com)

Homepage: [itokanoh.com](http://itokanoh.com)